

Akira Kurosawa, Screenwriter

展覧会

# 脚本家 黒澤明

2022.8.2(火) - 11.27(日)

\*月曜日および9月6日(水)~9日(金)、9月27日(水)~10月2日(日)は休業です。

国立映画アーカイブ展示室 (7階)

開室時間：午前11時~午後6時30分(入室は午後6時まで) \*毎月末の金曜日のみ開館時間を午後8時まで延長いたします。(入室は午後7時30分まで) \*会期および開館時間等に変更がある場合はホームページでお知らせします。

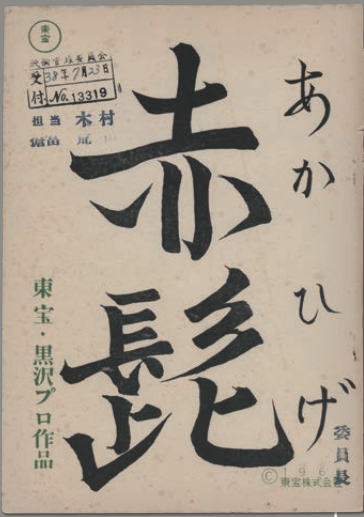
料金：一般250円(200円)/大学生130円(60円)/65歳以上、高校生以下及び18歳未満、障害者(付添者は原則1名まで)、国立映画アーカイブのキャンパスメンバーズは無料 \*料金は常設の「日本映画の歴史」の入場料を含みます。\*( )内は20名以上の団体料金です。\*学生、65歳以上、障害者、キャンパスメンバーズの方は入室の際、証明できるものをご提示ください。\*国立映画アーカイブが主催する上映会の観覧券(オンラインチケット「購入確認メール」)をご提示いただくと、1回に限り団体料金が適用されます。\*2022年11月3日(木)「文化の日」は、無料でご覧いただけます。

主催：国立映画アーカイブ  
企画協力：横田寿文 資料作成協力：「脚本家 黒澤明」研究チーム  
協力：黒澤プロダクション  
国立映画アーカイブホームページ [www.nfaj.go.jp/](http://www.nfaj.go.jp/)  
Twitter: @NFAJ\_PR Facebook: NFAJPR  
Instagram: nationalfilmarchiveofjapan



【新型コロナウイルス感染症拡大予防のため】マスクの着用のない方(2歳未満は除く)、体温が37.5℃以上の方は入館をお断りいたします。

## クロサワもまた文豪なり

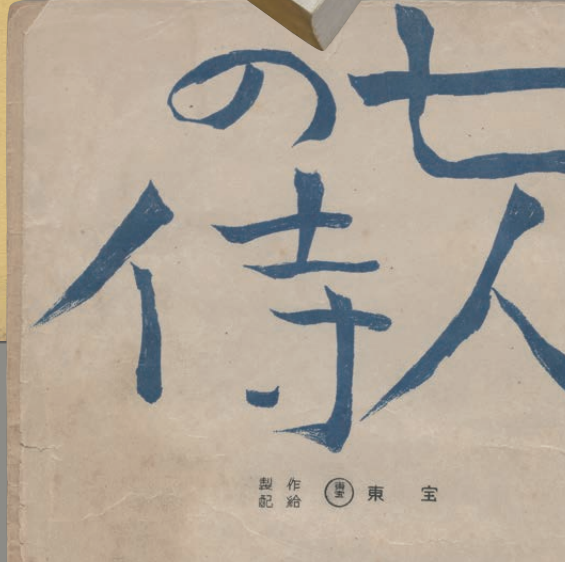
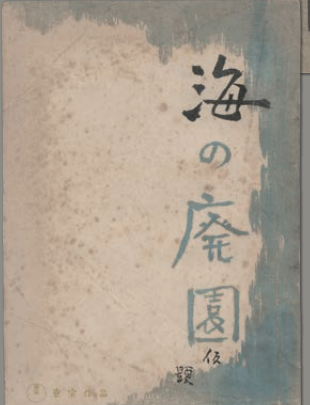
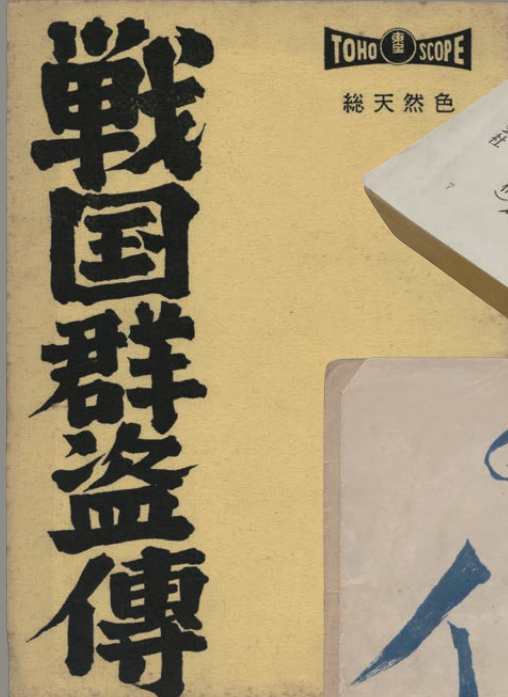
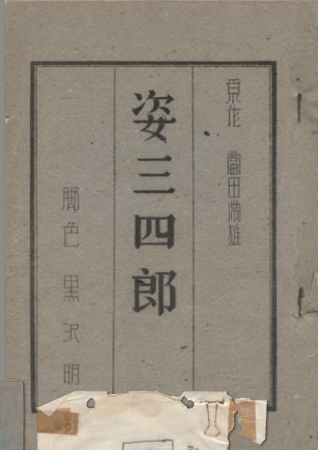
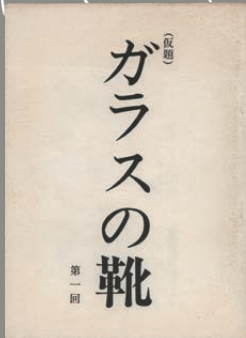
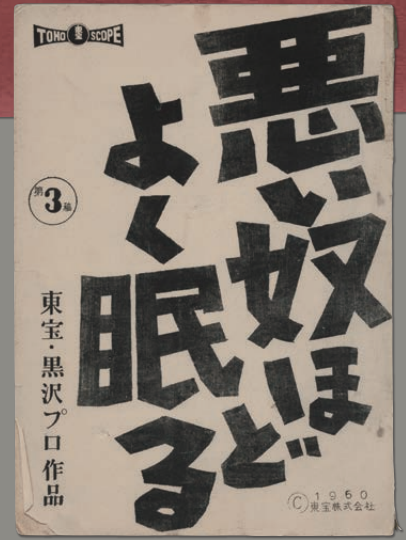


此石の中  
今日も朝から暑い夏の陽がキラキラ  
ナレ込んで居る。  
建物の板の向に寝ころんで眠って居た  
男、目を覚まして身を起す。傍を見たら  
怪訝な顔に於る。  
太平だけがイギリキキ眠って居て又十  
の姿は無い。  
此の中を探し



A SCREENPLAY BY AKIRA KUROSAWA  
HIDEO OGUNI  
MASATO IDE

January 17, 1983 KUROSAWA PRODUCTION



図版(右上から時計回り) ▶『乱』(1985年)英訳台本 横田寿文氏所蔵 ▶『悪い奴ほどよく眠る』(1960年)台本決定稿 横田寿文氏所蔵  
▶『虎 虎 虎』(黒澤明版)台本 個人蔵(写真提供:調布市武者小路実篤記念館) ▶『七人の侍』(1954年)志村喬旧蔵台本 当館所蔵  
▶『戦国群盗傳』(杉江敏男監督、1959年)台本決定稿 横田寿文氏所蔵 ▶『姿三四郎』(1943年)台本 当館所蔵 ▶『AND...!』(未映  
像化)梗概 土田勇氏所蔵 ▶『海の廃園』(『青い真珠』本多猪四郎監督、1951年)台本 横田寿文氏所蔵 ▶『ガラスの靴』台本決定稿(未映  
像化) 横田寿文氏所蔵 ▶『隠し砦の三悪人』(1958年)黒澤明直筆原稿 当館所蔵 ▶『赤いひげ』(1965年)台本 横田寿文氏所蔵

製作 東宝

# 修業時代から後期作品まで —「書く人」黒澤の仕事をたどる

映画監督黒澤明は、幾多の名脚本家に支えられて次々と傑作映画を生み出しましたが、その若き日から、世界の文豪たちの影響を受けながら自身もシナリオを執筆することで成長しました。この展覧会は黒澤のこうした側面に着目し、『七人の侍』(1954年)をはじめとする名作脚本の生成・変更の過程を分析し、また他の監督たちに提供した脚本、新たに発見された未映像化脚本も加えて、「シナリオ作家黒澤」の創作の秘密を解き明かそうとするものです。これまでドストエフスキー、シェイクスピア、山本周五郎と黒澤映画の関係についてはよく論じられてきましたが、黒澤は、実はバルザックやそれ以外の多くの文学作品からも強いインスピレーションを受けています。

当館は、2010年の「生誕百年 映画監督 黒澤明」展のあとも、ポスター展「旅する黒澤明」(2018年)、「公開70周年記念 映画『羅生門』展」(2020年)と、展覧会を通じて黒澤映画の先端的な探求を推し進めてきました。黒澤作品の専門家の全面的な協力を得て、そのシナリオ術に照準を当てた本展覧会は、その研究の最新形となるでしょう。

As a director, Akira Kurosawa created a succession of masterpieces with the support of numerous master screenwriters. However, Kurosawa was also a screenwriter in his own right. From early in his career, he matured by writing scripts while being influenced by the world's literary giants. This exhibition focuses on that aspect of Akira Kurosawa. It attempts to unveil the creative secrets of "Kurosawa, the screenwriter" by analyzing the processes by which he created and reworked famous screenplays, including *Seven Samurai* (1954), and by taking into account scripts he provided to other directors and newly discovered un-filmed scripts. Although the associations between Kurosawa's films and Dostoevsky, Shakespeare, and Shugoro Yamamoto have been a topic of considerable discussion, in reality Kurosawa also drew strong inspiration from the literary works of Balzac and many others.

Ever since the 2010 exhibition "Akira Kurosawa Retrospective at his Centenary," the National Film Archive of Japan has engaged in a groundbreaking exploration of Kurosawa's films through exhibitions, among them the poster showings "Kurosawa Travels around the World" (2018) and "Rashomon at the 70th Anniversary" (2020). This exhibition, which was prepared with the full cooperation of Kurosawa experts, focuses on Kurosawa's scriptwriting skills and thus represents the latest in this series of research endeavors.

シナリオというものを、こんなに面白く読ませることを発明したのはクロさんだと思う。題名のつけかたも絶妙で天下一品、いつも感嘆する。 市川崑(1987年)

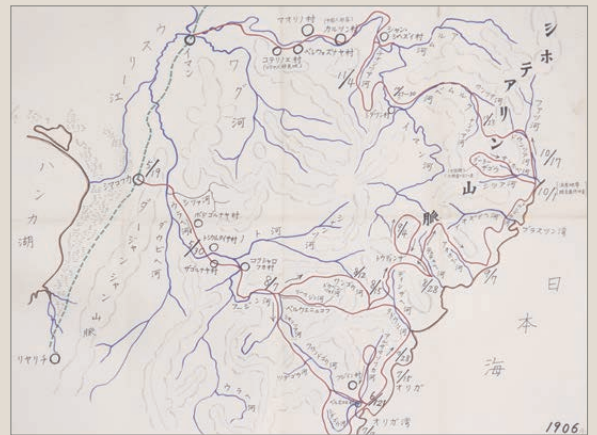
## 展覧会の内容

\*関連イベントを実施する際は、ホームページでお知らせいたします。

- ▶ 脚本家デビューへの道～修業時代の脚本
- ▶ 黒澤に影響を与えた世界の文豪たち
- ▶ 『七人の侍』創作の秘密
- ▶ 創造の軌跡～初稿から決定稿へ ※デジタル展示を導入予定
- ▶ 他の監督に提供した脚本
- ▶ 幻の未映像化脚本



図版(左上から右下)『美しき設計』(『青春の気流』伏水修監督、1942年)台本準備稿[複写] 当館所蔵  
『芸苑』1946年7-8月号(黒澤明のエッセイ「わが愛読書」掲載) 横田寿文氏所蔵  
『白痴』(1951年)梗概 当館所蔵  
アレクサンドル・フジャエフ『壊滅』(蔵原性人訳、1929年) 横田寿文氏所蔵  
ウラディーミル・アルセーニエフ『ウズリー探検記』(満鉄調査部第三調査室訳、1941年) 横田寿文氏所蔵  
『デルス・ウザーラ』(1975年)シナリオ参考資料「アルセーニエフ探検要図」 二戸真知子氏所蔵



## 展覧会公式図録『脚本家 黒澤明』

[監修] 国立映画アーカイブ・横田寿文 [発行] 国書刊行会  
[刊行予定日] 2022年9月  
ISBN: 978-4-336-07396-9 A4変型判・並製 予価: 本体3,200円+税

## 関連上映企画 東宝の90年 モダンと革新の映画史(2)

会期: 2022年10月4日(火)～12月25日(日) 会場: 小ホール  
上記の特集のうち、11月後半に本展覧会の関連作品を上映します。  
\*詳細はホームページをご覧ください。

マスク着用のない方(2歳未満は除く)、体温が37.5℃以上の方は入館をお断りします。

【当館の新型コロナウイルス感染拡大防止策】  
\*来館者全員への検温を実施。 \*館内各所に手指用消毒液を設置。 \*清掃・消毒を強化。 \*展示室内の換気を強化。 \*スタッフはマスク・手袋等を着用して対応。 \*受付等の対面場所に飛沫ガードの設置

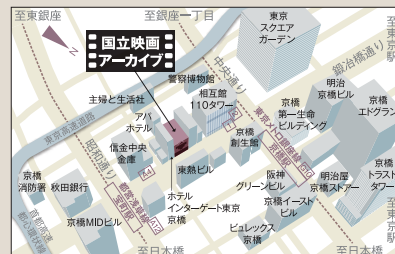
【ご来館の皆様へのお願い】  
\*発熱や風邪などの症状がある方は、来館をお控えください。 \*館内ではマスクを常時ご着用ください。 \*館内で体調を崩された場合は、スタッフにお知らせください。 \*こまめな手洗いや手指の消毒にご協力ください。 \*入退場やご観覧の際は、互いに適切な距離を保つようお願いいたします。 \*展示室内での会話はお控えください。 \*ロビー等での飲食は、蓋の閉まる飲み物以外は禁止にさせていただきます。 \*感染発生時の入館者追跡のため、ご自身で入館日時の記録をお願いします。 \*その他、感染症防止に関する当館の指示をお守りいただきますようお願いいたします。



長瀬映像文化財団

国立映画アーカイブは長瀬映像文化財団の支援を受けています。

〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6  
お問い合わせ: ハローダイヤル 050-5541-8600  
国立映画アーカイブホームページ  
www.nfaj.go.jp/



- 交通
- ▶ 東京外環線有楽町線有楽町駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分
  - ▶ 都営地下鉄浅草線有楽町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分
  - ▶ 東京外環線有楽町線有楽町駅下車、出口7より徒歩5分
  - ▶ JR東横線有楽町線有楽町駅下車、八重洲南口より徒歩10分